

語り継ぐ七十年史

一般社団法人 関西経済同友会

## 同友会の過去・現在・未来

### 座談会

#### 【出席者】

蔭山 秀一 代表幹事 株式会社三井住友銀行 取締役副会長

鈴木 博之 代表幹事 丸一鋼管株式会社 取締役会長兼 CEO

津田 和明 元代表幹事(平成12・13年度)  
サントリーホールディングス株式会社 社友

篠崎 由紀子 常任幹事・関西広域インフラ・うめきた委員会委員長(うめきた担当)  
高麗橋サロン 主宰

佐藤 潤 常任幹事・安全保障委員会委員長  
株式会社昭和丸筒 取締役会長

#### 【司会】

齊藤 行巨 常任幹事・事務局長

(敬称略)



書籍で大阪の魅力を発信



リニューアルした本会ホームページ(平成28年10月)

の三”を発刊した。  
これらとは別に、伝統文化や歴史、食など六分野にわたる大阪の良さを収集・選定した『大阪語(カタ) ログ 一分間で語る『大阪お国自慢』を平成二二一年に発刊した。  
インターネット上では本会の既存の運営サイトを、平成二八年一月二一日創立七〇周年記念式典当日に、より見やすく分かりやすくなるようホームページのリニューアルを行った。

### 関西経済同友会の未来を考える

関西経済同友会の存在価値を高め、今日から明日に向かって進化し続けるため、関西経済同友会の未来を考える委員会(委員長鈴木博之丸一鋼管取締役会長兼CEO)は平成二六年四月に意見書を作りまとめた。

委員会では、まず、「関西経済同友会のありたい姿」について議論した。そ

に「三都食物語 経済人たべある記」を発刊した。そして、平成二九(二〇一七)年三月には創立七〇周年を記念し、七〇人の会員が寄稿した『関西経済人いちおしの店 其

の結果を、次のようにとりまとめた。

- ①日本経済・社会にとって、どんな存在になりたいか  
関西経済同友会は、わが国および世界の経済・社会の健全な発展のために、日本政府や地方自治体から頼りにされ、その政策立案・実行に欠かせない存在となる。
- ②そのために、どのように行動するか  
企業経営者とその立場を離れて、個人として感じている肌感覚や自由な発想により、他の経済団体とは一味違う視点で、大胆かつ斬新、尖った意見・主張を世の中に対して発信し、その実現に向け行動する。また、関西に籍を置く経済団体として、地域の視点も重視した活動を行う。
- ③参加する企業経営者として、どんな存在になりたいか  
企業経営者が相互に啓発しあい切磋琢磨できる場、経営のアクションに結びつく知見や人脈を得られる場、そして気楽に親交を温められる場として、次世代の経営者を育み、関西・日本経済を持続的に活性化させる存在となる。

『ありたい姿』を議論の上、意見書(以下、骨子)にまとめた。

- 発言力・実行力の向上(関西経済同友会のプレゼンス向上)  
委員会などのテーマ選定、活動のあり方  
他の経済団体などとの連携
- 発言の発信・アピール方法、提言のフォロー  
提言の発信・参画意識の向上  
●会員満足度、参画意識の向上  
会員への広報、説明の充実と会員の要望・ニーズの把握  
幹事会活動など
- 関西経済同友会の運営、組織のあり方  
事務局・スタッフ体制の強化  
若手・女性の参画 など